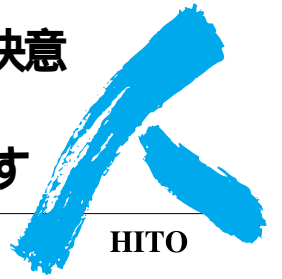




「自分が継いでいく」という決意
今、等身大の農業を
自分のペースで探しています



HITO

村田健治さん
(平成13年度狭山4Hクラブ会長)

「野菜は毎日手をかけ、目をかけてあげないといけない『生きもの』です。だから長く家を空けることはできません。でも、ときには2日くらいの休みをもらって、スノーボードやゴルフを楽しみます。」と趣味にも熱心な村田さん。

「高校生の頃から家業の農家を継ぐことは意識していたから、大学を卒業してすぐに4Hクラブに入ったのは、本当に自然なことでした。」とゆつくりと話し始めた村田さん。今年度の4Hクラブ会長です。その言葉どおり、今は祖父とご両親、村田さんの4人で、2.8haの畑で野菜を作り、市場に出荷している農家の若手後継者です。

狭山4Hクラブとは、26歳以下の人が入れる団体で、メンバーには就農しているかたが多いのですが、農家の人に限らず誰でも入れます。現在は女性数名を含む27名が所属しており、会社勤めのかたもいます。クラブは堀兼地区にある農村環境改善センターを活動拠点にして毎月定例会を開き、バーベキューなどの親睦行事も実施しています。

そして、最も重要な活動として、毎年この時期に開催される産業祭に出店するための野菜作りがあります。センター脇のほ場で、1年を通して研究しながら野菜を作ります。

今年11月18日に開催され、大根にんじんほうれんそう、小松菜、里芋の5種類が店頭に並び予定。廉価で品質も良く、毎年飛ぶように売り切れてしまします。他にも杓と臼を使った餅つきは小さいお子さんにも大人気で、つき上がったお餅に長蛇の列ができます。それから産業祭といえは目玉イベントの一つに、東京農業大学全学応援団による通称「大根踊り」があります。実はこの踊りに使われる大根も、4Hクラブで作ったものです。

今年の4Hクラブの研究成果を伺うと、今年は県でも推奨しているのですが、減農薬・減化学肥料での大根作りを計画していたんです。ところが、肥料を撒かなければいけない時期に台風が来てしまっていてできなかったんです。自分の家の野菜作りに取り入れるかどうかは農家にとにいろいろやり方があるのでいちがいに言えませんが、4Hクラブでそういうことを学べば、自分の家の農業を続けていくうえでも役立



大根踊りを踊った人は、使った大根をお土産に持って帰れます。

つと思うんです。」と村田さん。なり4Hクラブの役割と自らに課せられた後継者としての使命を語ります。そうは言っても、村田さんは自分の家で有機農業を取り入れることについては、特に慎重になります。それは、せっかく減農薬で野菜を作っても消費者の多くが肥料を使ったまっすぐなキュウリ、虫の付いていないホウレンソウを求めからだとす。肥料を使わないと、どうしても虫が喰ったりいびつになりがちです。そういう野菜を進んで買求める消費者がもっと増えないと、有機農業で野菜を作るとは難しいのだそうです。

現在、村田さんのご自宅の裏の畑では、産業祭用の大根が瑞々しい緑色の葉っぱをたくさん広げて、すくすくと成長しています。その葉の一枚一枚をながら、自分には農業しかない。他の仕事をしている自分は想像もできないんです。それでも『自分が跡取りとして農業をやっているんだ。』って実感するようになってくんだ。『最近のこと。やっぱり両親が昔のようにパワーがなくなってきた。』って感じたときですね。『と、自分のめざす等身大の農業を、自分らしい言葉で語ってくださいました。』

●4Hクラブ、産業祭に関する問い合わせ農政課へ内線2531

小学生のもう一つのお家 それが学童保育室です みんな元気いっぱい、遊びます



山王学童保育室では教室を2つ使っていて、片方の教室は机を並べて宿題をしたり、おやつを食べたりできます。もう1つはオープンスペースで、ブロックやゲーム、ボール遊びができます。

REPORTER'S EYE

学童保育室

【リポーター】

菊地英子さん(堀兼在住)

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることから、市内のいろいろな施設などを、読者がリポートします。

「ただいまー!」「お帰りー!」15時、元気な声が響きます。ここは山王学童保育室。帰ってきたのは3年生の子どもたちです。

学童保育室は、保護者が就労のために家庭で保育をできない場合に、放課後、児童を預かってくださる場所です。現在、1年生から3年生までの子どもたちが、市内の15か所公立11か所、民間4か所の学童保育室を利用しています。預かってくれる時間は、放課後18時30分までで、夏休みなどの長期休暇中も開設しています。

狭山市では、すべての学校ごとに学童保育室を設けることを目標に、現在整備を進めているそうです。私

が伺った山王学童保育室は、1年前に山王小学校の余裕教室を改装して開設された新しい学童保育室です。その前は、歩いて30分程の距離の入曽乳児保育所隣にある学童保育室に通っていたそうです。

低学年の子どもには負担が大きかったらと思う。それに、保護者の皆さんの不安も考えると、安全に放課後を過ごすためにも、1学校区1学童保育室は重要な課題だと感じました。今は学校と同じ敷地内にある学童保育室なので、クラブ活動などで使っていなければ校庭も使えますし、学童保育室に入っていないお友だちがいったん家に帰った後、学校に遊びに来れば、一緒に遊ぶこともできます。

さて、子どもたちは学童保育室でどんな風に過ごしているのでしょうか。帰って来るとほとんどの子がすぐに宿題を済ませます。それが終わって16時のおやつの時間までは自由時間。おやつを食べた後に掃除をして、保護者が迎えに来るまで遊んで過ごします。私は小さい子どもを連れて伺ったのですが、みんな人なつこく、学年やクラスなどの隔てなく一緒に遊んでくれました。異学年の子ども同士が遊ぶことが少ない昨今、貴重な



今日のおやつはパンと果物。当番が配膳した後、みんなで「いただきます!」

体験だと思えます。また、学校の延長として捉えがちな学童保育室ですが、実際に見てみると、とても家庭的であることに驚きました。保育士の資格を持つ指導員が3名、常駐しているのですが、子どもたちが帰ってくる前におやつを手作りで用意したり、学校であつたことに耳を傾けてくれたりと、一時的なお母さん役をしてくださっているようです。学童保育室に入りたくて、お母さんが働けば私も学童に入れるから、働いて!と言いつつもいるというエピソードも聞きますね。それでも、指導員さんは、私たちが学校での体験を、ご両親よりも先に聞いてしまつて良いものかと悩みますね。できれば、私たちに話してくれたことを、新鮮なうちに家の人にも話してもらいたいし、ご両親も聞いてあげる余裕を持つてほしいです。と、子どもにとって本当に良い場所が家庭であることを十分に理解しながら、それに少しでも近い環境を学童保育室で作るよう、努力をしてくださっている様子がうかがえます。

こんな家庭的な学童保育室。地域との交流事業もあるそうなので、皆さんぜひ生き生きとして、人なつこい子どもたちと遊んでみてはいかがでしょうか。

●問い合わせ児童福祉課へ内線1531